農村環境改善センターを広報リポーターと見る

解説＊

＊施設のあらまし
所在地　金巻746－3
面積　延べ1297.32㎡
　　敷地2716.87㎡
事業費　3億1358万円
　　補助2億7520万円
　　内訳　国費1億3760万円
　　県費　5504万円
　　町　8251万円
　　町単独　3834万円
設計　㈱阿貴設計事業所
施工　㈱加賀田組　ほか
工期　昭和59年8月10日着工
　　昭和61年7月21日完工

＊利用方法
利用の申込み　早目に電話して、「使用許可申請書」（センターにあります）を提出してください。
開館時間　午前8時30分～午後10時
休館日　毎週月曜日、年末年始
電話　8－7807

＊解説・農村総合整備モデル事業
この事業は農村の生活環境と生産基盤の整備を図るもので、国が昭和48年に創設。事業費は国が5割、県が2割補助します。黒埼町では55年からモデル事業を導入し、農業用用排水施設（黒鳥、木場）、農道（黒鳥、木場、小平方）、農業集落道（板井）、集落排水施設（木場）の生産基盤を整備してきました。59年にモデル事業の目玉の農村環境改善センターに着手し7月に完成。
総事業費は約18億円で、今年度までの進捗率（進み具合）は30%ほどで、すべての事業の完成は10年以上かかると予想されます。今後は農道、用排水路の整備のほか農村公園、多目的利用施設（集落センター）などを計画しています。国県の厳しい財政のため町ではできるだけ補助を確保しようと努力しています。なお、郡内では吉田町以外の全町村でモデル事業が導入されています。

ご質問をお待ちしています

皆さんの町政へのご質問、ご意見をお待ちしています。奥さまリポーターが皆さんに代わって取材します。連絡先は企画開発課広報係。

▶農村環境改善センター、左側に町民手作り庭園があります。軽スポーツに会議に、料理教室に…おおいに利用されています

◀広報リポーター・大谷定子さん（大野七区）2人の小学生のお母さん。また、英会話教師としても活躍中

広報係に右記のようなお手紙を頂きました。町が新しく造った施設を高く評価していただき、うれしい限りです。もっとPRを…とのことですので、より客観的に町民の立場から農村環境改善センターを紹介していただこうと、大谷定子さんにルポしてもらいました。

農業以外の人は無関係？

九月十七日㈬、八月にオープンしたばかりの「黒埼町農村環境改善センター」を訪れました。金巻の総合体育館と図書館に挟まれたしゃれたレンガ色の建物がそれです。広報にもたびたび紹介され、八月にはパンフレットも配られて、楽しみにしていました。

ただ、わたしが思っていたことは、農村という名前から農業の施設で、農業に無縁のわたしには全く関係のない建物なのでは、ということです。

しかし、実際に見てみて役場の人の話を聞いて、そうではなくて町民全員の施設だということがわかりました。それを報告したいと思います。

ホールはコンサートも可能

農政課の佐藤義智課長、長谷川甚一係長、鳴海俊明主事の担当のかたにセンターを案内してもらいました。施設のデザインがとても気に入っているわたしは、それを聞いてみたところ、設計業者にデザイン競争させたとのことです。

視聴覚室の完成早くして

ほかには、保健室、生活研修室、農事研究室、会議室などがありました。和室の集会室は入り口がとても凝った作りになっていて感心。池乗ミヤさんから寄贈された三百枚の集印帖もここに飾られています。調理実習室はちょっと狭い気もしますが、今までの中央公民館のものと比べると雲泥の差です。

視聴覚室はまだ音響や映像器機が購入されていませんでした。今年は予算がなく一、二年後にそろえる予定とか。完璧な防音装置、モニターテレビや映画スクリーンはそろっているだけに早目の完成を。

記念に木を植えませんか

最後にセンター自慢の日本庭園を見ました。何が自慢かというと、この庭の木は町のかたから寄贈され、「町民手づくり庭園」と名付けられているのです。佐藤さんは「まだスペースがあるので、ぜひ植えてください。例えば子供さんが生まれた記念とか、結婚の記念とかにここに樹木を植えてはどうでしょう」と話しています。それはいいアイデアだなと思いました。

ただ、草がのびほうだいでしたので、至急手入れをされた方がよいと思います。「できたら町民のボランティアでお願いしたいのです」と佐藤さん。また、モダンな外灯も設置したいそうです。

だれでも使え、随所にアイデアと税金が生かされています

一か月の利用一千七百人

センターの利用状況は、八月一か月間で利用者数は一千七百八人で、社会教育団体、婦人会、保健関係、政治団体などが利用しています。ジャズダンスや三世代交流会、成人式、農業の研修会にも使われ多種多様です。もちろん、農業関係者だけではなく、一般の人も使えます。よかったと思いました。

農村環境改善センターの名前は、この建物は国の農村総合整備モデル事業を町が導入して造ったため、変えられないのだそうです。

町のお金は一億三千万円

センターの利用はだれでもできますが、センターの対象は町内の農村人口の六千七百十人で、その人口用にの施設なのだそうです。

佐藤さんは「本来は純農村のための施設なのですが、黒埼町の場合、都市化が進んでいますので、国県との交渉は苦労しました」と話しています。建設費は三億一千三百五十八万円で、そのうち一億九千三百万円ほどが国県の補助なんだそうです。町は残りの一億二千万円ほどを負担しただけとのこと。驚きました。

でも「今は補助がなかなか付きにくい」と長谷川さん。鳴海さんも「最初はテニスコートや噴水も補助対象だったのですが、途中で対象外になって」。

佐藤課長、長谷川係長、鳴海主事（右から）に話を聞く大谷さん

〝味〟をつけるために工夫

センターは国の規格があり、それだけでも十分だそうですが、さらに黒埼町に合った施設にするため、町のお金が使われているそうです。町民手づくり庭園や高価な音響機器、内部の装飾品や備品がそうで、「できるだけ使いやすいように〝味〟を町で付けました」と鳴海さんは強調しています。

町の行政にはあまり関心が深くなかったのですが、今回の取材をとおして、わたしたちの目に見えない役場の苦労やアイデアを知りました。また、税金も無駄に使われていないようで安心しました。

せっかくの施設ですので、わたしたちもおおいに活用していきたいものです。

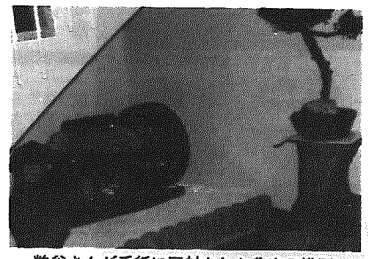
奥さまリポート

先日、開館した農村環境改善センターで開かれた三世代交流会に参加しました。交流会は学ぶところが多く有意義でしたが、それはさておき、このセンターはたいへん心配りのある施設です。

一階から二階へ上る階段の下に、白い砂が敷かれ水車付きの農家の模型が飾られていました。普通、このような場所は人目につかず、物が置かれ殺風景になりがちです。初めからこのようにハイセンスにまとめられているところが大変気に入りました。ほかの集会場、会議施設とも全く申し分ないつくりです。

これからもこの施設を有効に活用して生活の向上に努めたいと思います。また、広報でも利用者が増えるようPRしてはどうでしょうか。

興野四区　粕谷欽二



粕谷さんが手紙に同封された農家の模型